

産科・周産母子センターに通院中の患者さんまたはご家族の方へ  
(臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、患者さんの診療情報を用いて行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」(平成26年文部科学省・厚生労働省告示第3号)の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の問い合わせ先へご照会ください。

[研究課題名] 妊娠高血圧腎症発症時のアンチトロンビン活性値と妊娠期間延長の関係

[研究機関名・長の氏名] 北海道大学病院 寶金 清博

[研究責任者名・所属] 森川 守 (産科・周産母子センター 准教授)

[研究の目的]

妊娠に伴い発症する妊娠高血圧腎症では、分娩(妊娠終了)が唯一の治療法です。妊娠高血圧腎症が妊娠早期に発症すると、早産に至り新生児予後は不良になります。新生児予後を少しでも良好にするためには、妊娠期間を延長することが重要です。妊娠高血圧腎症では、アンチトロンビン活性の低下をしばしば認めます。そこで、妊娠高血圧腎症発症時のアンチトロンビン活性値とその後の分娩までの妊娠期間延長の関係を明らかにします。

[研究の方法]

○対象となる患者さん

当科で2010年1月1日から2017年12月31日までの8年間に妊娠22週以降に分娩した妊婦さんで妊娠高血圧腎症を発症した方。

○利用するカルテ情報(2018年6月30日までのカルテ情報を利用する)

①母体：妊娠・分娩歴、合併症(高血圧、糖尿病)の有無、妊娠高血圧腎症発症既往の有無、年齢、性別、身長、体重、血圧、尿蛋白、血液検査結果(アンチトロンビン活性を含む)、分娩所見(分娩週数、分娩様式)、産後経過(分娩12週間まで)、予後(生死、HELLP症候群・子癇・肺水腫など合併症発症の有無、胎児死亡の有無)

②新生児：出生体重、性別、アプガースコア、予後(生死、後遺症の有無)

[研究実施期間] 許可日～2018年12月31日(登録締切日：2018年6月30日)

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる情報は削除して利用いたします。

\* 上記の研究に情報を利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

[連絡先・相談窓口]

北海道札幌市北 14 条西 5 丁目

北海道大学病院 産科・周産母子センター

担当医師 森川 守

電話 011-706-5678(外来)/5789(病棟)/5941(医局)

FAX 011-706-7711